

各 位

会 社 名 株 式 会 社 倉 元 製 作 所
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 鈴 木 聡
 (J A S D A Q ・ コ ー ド 5 2 1 6)
 問 合 せ 先 取 締 役 経 営 管 理 本 部 長 関 根 紀 幸
 電 話 0 2 2 8 3 2 5 1 1 1

特別損失の計上および通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 20 年 12 月期決算において下記のとおり特別損失を計上する見込みとなりましたので、その概要をお知らせするとともに、平成 20 年 8 月 21 日付当社「平成 20 年 12 月期 中間決算短信」にて公表いたしました通期業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 特別損失の発生およびその内容

関係会社支援損失引当金繰入額

平成 20 年 8 月 4 日付「特別損益の発生および業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり、中間期に当社子会社(株)倉元マシナリーに関連した関係会社支援損失引当金繰入額 28 百万円を計上しましたが、同社の債務超過額の拡大を見込み 64 百万円増額し、平成 20 年 12 月期末の個別の特別損失に関係会社支援損失引当金繰入額 92 百万円を計上する見込みであります。

なお、連結決算においては消去となるため、関係会社支援損失引当金繰入額の計上はありません。

子会社株式評価損

得意先の磁気ヘッド事業譲渡に伴い、当社子会社ヘルツ電子(株)が平成 20 年 12 月期末に純損失となる見込みとなったため、同期末の個別の特別損失に子会社株式評価損 96 百万円を計上する見込みであります。

なお、連結決算においては消去となるため、子会社株式評価損の計上はありません。

貸倒引当金繰入額

当社子会社(株)倉元マシナリーおよびヘルツ電子(株)に対する当社の貸付金等が増加する見込みとなり、平成 20 年 12 月期末の個別の特別損失に貸倒引当金繰入額 110 百万円を計上する見込みであります。

なお、連結決算においては消去となるため、貸倒引当金繰入額の計上はありません。

2. 通期業績予想の修正

修正内容

平成 20 年 12 月期の連結通期業績予想 (平成 20 年 1 月 1 日 ~ 平成 20 年 12 月 31 日)

[連結]

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前 回 予 想 (A) (平成 20 年 8 月 21 日公表)	23,000	600	450	630	63 円 69 銭
今 回 修 正 (B)	22,800	550	370	530	53 円 57 銭
増 減 額 (B - A)	200	50	80	100	10 円 12 銭
増 減 率	0.9%	8.3%	17.8%	15.9%	15.9%
(ご参考) 前期実績 (平成 19 年 12 月期)	30,044	917	481	3,192	330 円 27 銭

平成 20 年 12 月期の個別通期業績予想（平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日）

〔個別〕

（単位：百万円）

	売上高	加工売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前 回 予 想 (A) (平成 20 年 8 月 21 日公表)	18,500	10,400	360	200	840	84 円 91 銭
今 回 修 正 (B)	17,800	9,000	250	100	300	30 円 32 銭
増 減 額 (B - A)	700	1,400	110	100	540	54 円 59 銭
増 減 率	3.8%	13.5%	30.6%	50.0%	64.3%	64.3%
(ご参考) 前期実績 (平成 19 年 12 月期)	19,467	10,480	276	415	4,917	508 円 80 銭

修正理由

〔連結〕

米国の金融危機を契機に世界的な景気の減速感が強まりつつあります。

当社連結の通期業績予想につきましては、金融危機による大幅な景気減速に伴う消費者マインドの悪化から液晶テレビやパソコン、携帯電話などのデジタル機器市場の拡大のペースがダウンするとともに競争激化による販売価格の下落が予想され、第 4 四半期（平成 20 年 10 月～12 月）においては、厳しい経営環境となるものと思われまます。

このような状況の中、連結売上高につきましては、主力の〔ガラス基板加工販売事業〕を中心に売上高の落ち込みが予想されるものの〔精密研磨布等製造販売事業〕がハードディスクドライブのディスク向けの受注が概ね堅調に推移しており、全体としては 200 百万円減の 22,800 百万円となる見込みであります。

連結の利益につきましては、〔ガラス基板加工販売事業〕の売上減に伴う収益面への影響により、営業利益が 50 百万円減の 550 百万円に、経常利益が 80 百万円減の 370 百万円に、当期純利益が 100 百万円減の 530 百万円となる見込みであります。

なお、連結当期純利益の減額幅が個別の減額幅に比して小さいのは、前述の子会社に関連する特別損失が連結時には連結消去されるためであります。

〔個別〕

個別の業績予想につきましては、液晶テレビ等の大型液晶パネル市場の成長の鈍化から液晶パネルメーカーの生産調整の動きが強まっていること、中小型ガラス基板においてもハイエンドタイプを中心とした携帯電話やデジカメ等の中小型液晶パネル搭載製品の伸びの減速が予想されること等から、厳しい受注環境となることが予想されます。

これら状況を勘案し、個別売上高を 700 百万円減の 17,800 百万円に、加工売上高を 1,400 百万円減の 9,000 百万円に修正しております。なお、売上高に対し加工売上高の減額幅が大きいのは、材料有償支給金額を含む〔カラーフィルタ基板加工品〕の売上が概ね堅調であるのに対し、加工賃ベースの〔液晶ガラス基板加工品〕と〔成膜ガラス基板〕の落ち込み等の影響が大きいことによるものです。

利益面においては、生産効率の向上および経費節減に努めたものの売上高減少の影響が大きく、営業利益を 110 百万円減の 250 百万円に、経常利益を 100 百万円減の 100 百万円と予想額を修正いたしました。当期純利益におきましては、前述の特別損失の計上により 540 百万円減の 300 百万円となる見込みであります。

以 上

上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる場合があります。